

Interview
表紙を飾ったあの人は今！

159号（平成30年6月号）で表紙を飾った藤井亜沙美さん。藤井さんは、市内での産科再開後、初めての赤ちゃんを出産しました。



159号の表紙を飾った藤井亜沙美さんと娘の七楓ちゃん

取材を受けた当時は、出産の前から自分の子どもが市内第1号になりそうだと聞いていました。再開後、初の出産だったので、産科のスタッフの皆さんも慣れないことが多かったらうと思いますが、試行錯誤しながら一緒に頑張ってくれて、うれしかったのを覚えています。

広報紙に掲載してもらったことは、何年後かに「こんなに小さかったんだよ。庄原で1番目の赤ちゃんだったんだよ」と話ができるので、今後の楽しみにもなっています。思い出が広報紙として形に残るといことが、とてもうれしいです。

広報紙は、今も毎月読んでいます。

特に「庄原が好き」の記事は、市内にこんな人いるのか！ということが知れて面白く、いつも楽しみです。今後も、地域の人や話題を紹介する記事が増えるとうれしいいな、と思います。



左から藤井桃果さん、柊吾さん、杏奈さん、七楓ちゃん、亜沙美さん

Interview
「広報しょうばら」思い出の一冊

歴代広報担当者へ、心に残っている一冊について聞きました。



平成17年4月号～平成18年4月号担当
なひろ かつが
中廣 勝文

9号（平成17年12月号）

庄原赤十字病院の産科休止をきっかけに、「庄原の子育て」について特集しました。不安を抱えながらも子育てに取り組む保護者の笑顔や、それを支える地域の皆さんの温かさに触れ、「庄原の子育て」の力を感しました。あれから16年。休止していた産科も再開され、多くの人の願いや取り組みが実を結んだことに、改めて感動しています。



平成18年5月号～平成22年4月号担当
いと びつ
糸原 美晴

53号（平成21年8月号）

この号の特集「守りたい！地域医療」では、小児医療の危機的な課題をテーマに、「地域医療を考える会」の発足や、「小児科の先生を守っていききたい」と活動する母親を追いました。その際、「今後、小児科の先生が希望して庄原市に来ていただけるような環境ができれば最高」と話されていたことが数年後に実現し、とても感激しました。



平成28年5月号～令和2年4月号担当
やました おさむ
奥山 寿春

112号（平成26年7月号）

特集した号はどの号も思い出深いですが、一冊を選ぶなら、初の試みとして「写真はがきカバー付き」で発刊したこの号ですね。市内のイベント情報と併せ、選りすぐりのスポットを写真はがきにしました。当時、読者の皆さんからの反響が大きく、返信いただいた広報紙への思いや感謝のコメントに、感激したのを覚えています。



SHOBARA the public information magazine
特集
広報 しょうばら
美しく輝く 里山共生都市
創刊200号

毎月、皆様のご家庭にお届けしている市の情報紙「広報しょうばら」。庄原市、西城町、東城町、口和町、高野町、比和町、総領町の旧1市6町が合併した平成17年に創刊し、今月で200号を迎えました。

今回は、これまで発行した広報紙を振り返ります。

「広報しょうばら」ピックアップ！



創刊号（平成17年4月号）
記念すべき第1号は、合併に伴う手続きなどの変更点をお知らせ。また、市民の合併に対する思いを紹介。



49号（平成21年4月号）
表紙で備北丘陵公園のイベントを紹介。紙面では、市役所本庁舎が新しく建てられ、4月からオープンしたことをお知らせ。



65号（平成22年8月号）
平成22年7月16日、市内を豪雨が襲い、大きな被害を受けた。表紙はヘリコプターでの救助の様子を掲載。



100号（平成25年7月号）
100号記念では、市民へ「広報しょうばら」に対する思いや、新聞記者へ広報の役割についてインタビュー。



128号（平成27年11月号）
庄原市制施行10周年記念式典を開催。イベントの様子を紹介した。また、この年の4月号から現在のタイトルロゴへ変更。



138号（平成28年9月号）
山内町出身の金藤理絵さんがリオ五輪競泳女子200m平泳ぎで金メダルを獲得。家族や市民からのお祝いの声を掲載。



159号（平成30年6月号）
13年ぶりに市内で産科が再開し、再開後初めての赤ちゃんが誕生したことを紹介。市内での出産について話を伺った。



175号（令和元年10月号）
「比婆牛」が、地理的表示保護制度（GI）に登録。2号にわたり、これまでの取り組みと関係者の喜びの声を掲載。